

温泉地における湯けむり景観の特性に関する研究 - その 2 -

正会員

穴見 修司* 佐藤 誠治**

姫野 由香*** 小林 祐司****

景観
構図

湯けむり
分類

1 研究の背景と目的

別府市における既往研究の成果から景観構成要素である「湯けむり」は同市の大規模な地形景観を特に特徴付けていることが明らかであり湯けむり景観は、世界的にも珍しい貴重な景観である。しかしながら湯けむりや、湯けむり景観に関する調査、研究は行われていないことからその 1 では湯けむりの特徴把握として別府市に見られる湯けむりの種類を把握し、分布状況を明らかにした。そこで本研究では、同市においてどのような湯けむり景観があるのかを明らかにする為に写真撮影により景観の構図分類を行ない、現在見られる湯けむり景観の特徴を明らかにすることを目的としている。

2 研究方法

研究の方法は図 1.フローチャートに示す通りである。

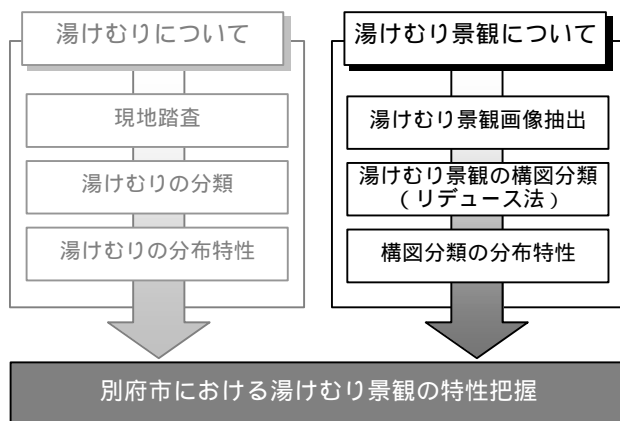


図 1 研究のフロー

3 湯けむり景観画像選別

観光パンフレット、絵葉書に載せるならという選定理由で、一視点場に一枚もしくは方角が違う場合は複数枚をその 1 で示した 9 地域ごとの外周となる主要道路沿いと分布の集中している場所で網羅的に 905 枚撮影した。その画像の類似したものは取り除き 165 枚とした。

4 リデュース法による湯けむり景観の構成パターン

湯けむり景観画像の構図をリデュース法(参 1.2)により分析した。その結果リデュース法の適応が可能であった湯けむり景観画像 158 枚を「表 1. 構成パターン」に示す。

表 1 に見るように、湯けむり景観画像に登場する景観シーンの構成パターンは、リデュース法により大きく 9 つに分類された。それぞれ E_3 最奥面又は、 Ob が存在するか否かが等で、細分化され、細かく見た場合、47 パターンに分けられることが明らかとなった。更に構図ごとに、構成される面に投影される景観構成要素の出現頻度を集計し、構図ごとの構成面における総数で除し百分率で表示したものが表 1. である。ここでは、紙面の都合上、構図大分類のみの分析結果をまとめる。

A 類：視線方向に立ちはだかるように存在する景観構成要素が複数重なり合い景観シーンを構成する。その複数間には F 面が認められないのが特徴である。この構図タイプでは湯けむりは $E_0E_1E_2$ 面に現れ、出現頻度の高い景観構成要素は E_3 面にその他山(54%)である。

B 類： F_1 面に投影される景観構成要素と視線方向に立ちはだかる景観構成要素で景観シーンを構成する。 F_1 面の上に乗るように存在する Ob と E 面が複数存在する場合がある。この構図パターンに属する湯けむり景観画像サンプル数が非常に多いことから、別府市で最も見られる湯けむり景観の構図である。また、湯けむりの多くが E_1 面や Ob として存在している。出現頻度の高い景観構成要素は E_3 面にその他山(88%)、 F_1 面に広場(30%)等がある。

C 類：B 類の E_1 面の奥に F_2 面が加わった景観の構図となっており、B 類より奥行きを感じさせる構成パターンである。この構図タイプでは湯けむりは Ob として存在する場合と湯けむりが複数集まり E 面を構成する場合がある。出現頻度の高い景観構成要素は E_3 面にその他山(50%)、 F_2 面に海(38%)、市街地(38%)等がある。

D 類：B 類に E_0 面が加わった景観の構図となっており、B 類には見られなかった奥行きを感じさせる構図になっている。この構図では湯けむりは Ob として存在する場合と湯けむりが複数集まり E 面を構成する場合が多く見られる。出現頻度の高い景観構成要素は E_0 面に樹木(48%)、 E_2 面にその他山(50%)、 F_1 面に市街地(44%)等がある。

E 類：D 類の E_1 面の奥にさらに F_2 が加わった景観の構図であり、湯けむりの多くが Ob として存在し、 F_1 面に市街地、 F_2 面に海、その奥の E 面に高崎山という構図タイプが大部分を占めている。

